



TITLE:

九九から始まる九九 一公開企画展 「和算の時代」に向けて一

AUTHOR(S):

福島, 利夫

CITATION:

福島, 利夫. 九九から始まる九九 一公開企画展「和算の時代」に向けて一. 静脩 2003, 40(2): 14-15

ISSUE DATE:

2003-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/37721>

RIGHT:

九九から始まる九九

公開企画展「和算の時代」に向けて

附属図書館情報管理課雑誌情報掛 福島 利夫
(公開企画展ワーキング・グループメンバー)

問1：小学校低学年の算数の授業で、誰もが暗誦させられる掛け算九九。今思えば、健気にもよく覚えたものです。この九九、日本には何時頃からあるのでしょうか。

A)奈良時代 B)鎌倉時代 C)江戸時代。

問2：ところで、この掛け算の表をなぜ「九九」というのか、疑問に思いませんか？なぜ、冒頭の「一一」とか「二二」ではなく、最後の「九九八十一」の「九九」なのでしょう。

答1：正解はA)です。あるいはもう少し前に中国から伝来したと考えられています。随分と古くからあることに、驚かれませんか？

答2：昔は今と違い、「九九八十一」から始まり、逆順に続いていました。それで「九九」という呼び方が定着したのです。

証拠は、と言いますと、これがちゃんとあるのです。皆さまご存知の文学作品や歴史史料の中に、面白い記述が見つかっています。

詳しい解説は、平成15年度附属図書館公開企画展の会場で、ご覧ください。

本企画展は、11月8日から12月7日の期間、百万遍の思文閣美術館を会場として、開催されます。テーマは「和算の時代 日本人の数学力をたどる」です。

西洋の数学がまだ伝わっていなかった江戸時代に、日本では「和算家」と呼ばれる学者達を中心に、驚くべき高度な数学がはぐくまれました。また庶民たちも、そろばんを始めとして、数学のいろいろな知識を、生活の一部としてごく自然に身に付けていました。

本企画展では、この江戸時代の和算に関する京都大学の蔵書を展示のメインとしますが、その他にももう少し視野を広げて、日本人がさらに昔の古代から、どのように「数」というものと関わって来たのか、その風景が垣間見られるよ

うな面白い資料を、文学作品や歴史史料の中から探して、展示する予定です。

問3：電卓が普及する前の計算道具といえば「そろばん」。そろばんは中国から日本に伝わりました。伝来の時期は、室町時代後半かと考えられていますが、正確には不明です。では、そろばんが普及する前の計算道具といえば、何でしょうか？

答3：「算木(さんぎ)」です。算木とは、木や竹で作った角棒のセットで、これを、方眼を作った盤の上に置き並べて操作し、計算を行います。簡単な計算をするだけならそろばんの利便性にはかないませんが、算木を使えば、連立方程式や高次方程式を解くことも可能なので、そろばん伝来後も、明治時代初めまで使用されていました。

昔の人が、この算木を使用している場面が、『今昔物語集』の中に描写されています。

『今昔物語集』巻28の第27は、傀儡子(くぐつ：人形使いの芸能集団)出身の目代(めだい)の話です。伊豆守は、部下の目代として任用するにふさわしい人物を探しています。ある人から紹介された人物は、年六十ばかり、かつぶくのよい「こわもて」の男。面接試験で事務能力を見てみます。字を書かせると、悪くない筆跡。ややこしい租税関係の文書の計算をさせると、男は「算木」を取り出して、ぱちぱちぱちんと計算を仕上げています。

今で言う電卓よりは随分大きそうですので、ノートパソコンでも取り出して、すらすら使いこなしているイメージでしょうか。文句なしの目代職合格です。

この目代、謹厳実直に仕事をこなし、評判も上々ですが、ある時、昔の傀儡子仲間の歌声に、

我慢出来ずに踊り出してしまって、ちょっとだけ箔が落ちてしまった、というのが話のおちです。

企画展会場には、算木の現物も展示しますので、是非ご覧ください。また、算木の模型を使って、実際に簡単な計算を体験していただくコー

ナーも設けます。(高次方程式の解き方など難しい問題を係員に質問していじめることはご遠慮願います。)

従来とは少し違った、親しみやすい企画展を目指して、日々準備しております。皆さまどうぞご期待ください。(ふくしま としお)

平成15年度京都大学附属図書館公開企画展

主催：京都大学附属図書館・思文閣美術館
後援：朝日新聞社

開催期間 11月8日(土)～12月7日(日)
休館日 11/10(月)・17(月)・25(火) , 12/1(月)

会場 思文閣美術館

開館時間 午前10時～午後5時

入場料 大学生・一般：400円 高校生：300円 中学生以下：無料

記念講演会

第1回

日時：平成15年11月8日(土) 午後2時～午後4時

会場：思文閣美術館

『面積って何だろう』(中高生・一般向)

講師：上野健爾氏(京都大学大学院理学研究科教授)

『幕末の数学者 小野友五郎』

講師：鳴海 風氏(小説家)

当日の講演会は入場券で参加出来ます。

先着120名までとさせていただきます。

第2回

日時：平成15年11月13日(木) 午後1時30分～午後3時30分

会場：京都大学附属図書館3階 AVホール

『和算から洋算へ』(大学生・一般向)

講師：上野健爾氏(京都大学大学院理学研究科教授)

当日の講演会は無料です。

過去の展示会は、こちらをご覧ください。

<http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/tenjikai/index.html>